

精神科認定看護師実践報告

精神科認定看護師は全国のさまざまな施設で、質の高い看護実践に取り組んでいます。その現場での実践内容を紹介します。

*なお、倫理的配慮として個人が特定されないよう、事例には改変を加えています。

精神科認定看護師 JOURNAL

地域のアルコール関連問題を支援につなぐ

介入の重要度の高いアルコール依存症の予備群や疑いのある方がほとんど参加せず、また参加していても介入が難しいという状況に向きあうために、住民健診の機会を利用して、「保健師との協働でアルコール使用障害スクリーニング(AUDIT)とその結果に応じた情報提供等を行う」という戦略を立案しました。この方法はハイリスク者をピックアップでき、リスクの軽減に向け即時に介入が行えるという利点があります。

本院は広島県アルコール健康障害対策推進計画に準じて、1次、2次予防の一助となることをめざし、依存症予防の「啓発活動Aチーム」(以下、Aチーム)を2019年に結成しました。私はAチームの舵取り役を担い、広島県内各地域の保健所等との意見交換を経て、地域住民を対象とした研修会(予防講座・相談会等)を行っています。

住民健診にかかわった背景や状況



啓発活動A(アディクション)チームメンバー。看護師、公認心理師、精神保健福祉士、作業療法士の多職種で構成。

早期介入を可能にする多機関によるネットワークづくり

健診時に介入の対象となるのは、多量飲酒のある方やアルコール依存症が疑われる方です。否認という心の防御機制が働きやすい依存症の特性を意識し、飲酒や病気の脅威のみを伝え不安をあおるのではなく、対処方法や減酒、断酒といった生き方の選択の先に現れるポジティブなイメージを伝えることが大事だと考えています。また、介入時間は1人につき10分程度なので、単発の介入で終わることのないよう結果を担当保健師と共有し、特にリスクの高い方には地域での継続支援が行えるように検討しています。

健診でAUDITを実施し、迅速にご本人にフィードバックを行うことで、行動変容のきっかけをつくることができます。低リスク群であれば、健康を維持しながら適量飲酒を続けていくための具体的方法を、共に考える機会にもなると考えています。

しかし、この戦略でも私たちが介入できるのは、アルコール関連問題を抱える方のほんの一部です。多くの方は、重症化してからでないと、専門治療につながりません。そこで、Aチームは現在、治療・支援を必要とする方への接点を増やし、早期介入を可能とするために医療だけではなく多機関による支援ネットワーク「呉圏域アルコール関

連問題対策協議会」の主要メンバーとしても奮闘中です。形だけにとどまらない、顔の見える関係を構築した有機的ネットワークをめざしています。

依存症治療のプロジェクトに携わり、依存症看護の専門性を高めたいという思いから、出願を決意しました。



田中瑞樹(たなか・みずぎ)
医療法人正雄会呉みどりヶ丘病院
精神科認定看護師(広島県)
(2014年登録)

第18回 精神科認定看護師 受講資格審査のご案内

2024年度の精神科認定看護師教育課程は、現行制度で実施します。なお、2025年度に精神科認定看護師制度の改正を行いますので、現行制度による受講資格審査の実施は今回が最後となり、8か月コースの募集のみとなります。出願される方は、日精看オンライン(<https://jpnajp>)にある出願要項をご確認ください。

- (1) 募集人員 80名(8か月コースのみ募集)
- (2) 出願期間 2023/9/1(金)～2023/9/30(土)(必着)
- (3) 出願資格 出願要件を2023/9/30時点で満たす者
- (4) 審査科目 小論文、書類審査
- (5) 審査日程 2023/11/8(水)
- (6) 開催方法 小論文はオンラインにより実施
- (7) 資格審査料 会員16,500円(税込)
非会員33,000円(税込)
- (8) 審査結果 2023/12/8(金)

出願要件は日精看オンラインをご参照ください。

お詫びと訂正

『日精看ニュース』4/22号8ページにおいて、下記の点について誤りがありました。大変、申し訳ありません。これから精神科認定看護師の資格取得をめざす方は、ご注意ください。

- 誤) 現行制度による受講資格審査の実施は、2024年度まで
- 正) 現行制度による受講資格審査の実施は、2023年度まで